



感染症と文学作品



新型コロナウイルスの感染拡大とともにフランスの作家アルベール・カミュが1947年に発表した長編小説『ペスト』が注目を集めています。歴史の中で人々は目に見えず実体のない感染症を恐れ、この恐れは文学的なテーマとして作家の心をとらえ数多くの文学作品にも描かれてきました。今回の展示では、当館所蔵の資料の中から、ペストを始め感染症の蔓延やそれに伴う社会の混乱等を題材にした文学作品を中心にをご紹介します。

書名	著者名	請求記号	資料コード
ペスト	アルベール・カミュ／著, 宮崎嶺雄／訳	953/796	1101721213
アルジェリアのオラン市で、ある朝、医師のリウーは鼠の死体をいくつか発見する。ついで原因不明の熱病者が続出、ペストの発生である。外部と遮断された孤立状態のなかで、必死に「悪」と闘う市民たちの姿を年代記風に淡々と描くことで、人間性を蝕む「不条理」と直面した時に示される人間の諸相や、過ぎ去ったばかりの対ナチス闘争での体験を寓意的に描き込み圧倒的共感を呼んだ長編。			
デカメロン	ボッカッチョ／著, 平川祐弘／訳	973/222	1105637399
1348年ペスト流行の折、女7人男3人合計10人の1行がフィレンツェ郊外に病魔を避けつれづれをなくさめるべく語り合う物語を集録した体裁で、僧侶生活の裏面や恋愛の実相を描き大胆な人間解放の躍動が感じられる作品。イギリスの「カンタベリー物語」やフランスの「エプタメロン」などに大きな影響を与えたボッカッチョの代表作。			
サナトリウム 『モーム短篇選 下』所収	モーム／著, 行方昭夫／編訳	080/89/1176.2	1105291098
結核が“死の病”としていまだ猛威を振るっていた20世紀初頭に結核に感染し、なぜ自分が感染しなければならなかったのかと自問自答し続ける男がサナトリウムでの闘病生活を送りながら、健康でいる妻に対し苛立ちを覚えるようになる。“予期せぬ事態”が自分の身に突如降りかかったとき、自分ならばどうするか考えさせられる作品。			
コレラの時代の愛	ガブリエル・ガルシア＝マルケス ／著、木村榮一／訳	963/138	1105067506
夫を不慮の事故で亡くしたばかりの女は72歳。彼女への思いを胸に、独身を守ってきたという男は76歳。ついにその夜、男は女に愛を告げた。困惑と不安、記憶と期待がさまざまに交錯する二人を乗せた蒸気船が、コロンビアの大河をたどる時…。内戦が疫病のように猖獗した時代を背景に悠然とくり広げられる愛の真実の物語。			
流行感冒 『小僧の神様 他十篇 [2002年]改版』所収	志賀直哉／作	080/89/943	1104660574
本書収録の短編「流行感冒」は、1918年にスペイン風邪がはやった時代の話。我孫子が舞台の作品だが、感染症が蔓延する状況下で、女中が嘘をついてこっそり芝居を見に行ったり、馴染みの植木屋から感染するエピソードがあったりと、パンデミックのさなかにあっても100年前の人々が人間的に振る舞うさまが描かれている作品。			
イリアス トロイアで戦った英雄たちの物語	アレクサンドロ・バリッコ／著, 草皆伸子／訳	973/196	1104977499
トロイア戦争の末期、物語はギリシア軍第一の勇将アキレウスと王アガメムノンの、火を吐くような舌戦に始まる。トロイに攻め込んだギリシア軍の陣営に疫病が発生するが、それはギリシア軍の総大将アガメムノンが、アポロンの祭司の娘を戦利品として愛人にしたことへの神罰であり、思慮に欠ける行動がもたらす結果として描かれている。			
洪水の年 上・下	マーガレット・アトウッド／著, 佐藤アヤ子／訳	933.7/1883/1.2	1106194085 1106194093
遺伝子操作で新しい生物が次々に作られ、食べ物は合成物ばかり。人々は巨大企業のエリートと平民に二分されている。人工世界に異議を唱えるエコロジカル宗教団体「神の庭師たち」と、その中で暮らす孤独な女性トビーと少女レン。突然、新型ウイルスが襲ってきて地上は廃墟となってしまう。偶然生き残ったトビーとレンの運命は？			
赤死病の仮面 『ポー怪奇幻想集 ヴィジュアル・ストーリー 1』所収	エドガー・アラン・ポー／著, 金原瑞人／訳	933.6/123/1	1105826398
1842年に発表されたエドガー・アラン・ポーの短編小説。感染すると体中から出血して死に至る「赤死病」が国内に蔓延する中、病を逃れて臣下とともに城砦に閉じこもり饗宴に耽る王に、不意に現れた謎めいた仮面の人物によって死がもたらされるまでを描いたゴシック風の恐怖小説。			
白の闇	ジョゼ・サラマーゴ／著, 雨沢泰／訳	969/59	1104483290
「いいえ、先生、わたしは眼鏡もかけたことがないのです」。突然の失明が巻き起こす未曾有の事態。運転中の男から、車泥棒、篤実な目医者、美しき娼婦へと、「ミルク色の海」が感染していく。善意と悪意の狭間で人間の価値が試される。			
病短編小説集	E. ヘミングウェイ, W. S. モーム [ほか]著、石塚久郎／監訳	080/103/846	1105999989
文学作品はこれまで病をどう語ってきたか。病は文学によってどのように意味づけされてきたのか。コナン・ドイル、フィッツジェラルドら名だたる作家によって書かれた、9つの病を主題とする14編を収録。			

本リストの資料は、4階公開資料室の展示コーナー（「展4」）にあります。
また、本リスト以外にも資料があります。資料検索でお調べいただくか、職員にお尋ねください。



栃木県立図書館



〒320-0027 栃木県宇都宮市埜田1-3-23
TEL 028-622-5111（代表）
028-622-5112（本の照会・相談）
HP <http://www.lib.pref.tochigi.lg.jp/>

